

降雹・大雨等に対する営農技術対策

平成24年8月1日
北海道農政部

北海道は、7月31日から8月1日にかけて、気圧の谷が通過し、上空に冷たい空気が入ったため、大気の状態が不安定になり、オホーツク管内を中心に、突風・降雹や大雨となりました。

この影響で、小麦、てん菜、ばれいしょ、たまねぎ、小豆などに被害が発生しています。被害を受けたほ場においては、次の技術対策を参考に、状況に応じた適切な対応に努めてください。

第1 共通事項

- 1 ほ場に流入した流木、ゴミ等は、安全を確認して速やかに除去する。
- 2 浸冠水や地表面に水が停滞しているほ場では、溝切りなどの排水対策を実施する。
- 3 降雹により茎葉が折損すると病虫害の発生が懸念される。病虫害の発生に注意し、適切な防除に努める。農薬を使用する際には、農薬使用基準を遵守するとともに、食品衛生法に基づく残留農薬の「ポジティブリスト制度」に対応した適時適切な散布に心がける。
- 4 強い降雹により、作物の損傷が著しい場合は、作物の回復状況を勘案し、対応を検討する。代替作物を播種する場合は、前作物の残存する肥料成分を勘案して施肥を行うとともに、ポジティブリスト制度を遵守するため、すでに施用した農薬に注意する。
- 5 農業、畜産関係施設の損傷、倒壊等の点検に努め、必要に応じて修復、補強を行う。また、修復等に必要な資材については、早急に必要量を把握し、その確保に努める。
- 6 農業機械が被害を受けた場合は、速やかに必要な点検、整備を実施するとともに、今後の農作業に支障が生じないように修理を行う。

第2 水稲

- 1 浸冠水した水田は、速やかに排水口の開放や畦畔を切る等の排水対策を行う。
- 2 泥流や土砂が流れ込み堆積した水田は、速やかに排除する。
- 3 穂や止葉に泥が付着している場合は、可能であれば防除機（鉄砲ノズル）の水量を多くして洗浄する。
- 4 崩れた畦畔や土砂で埋没した用排水路や水口は、水が引いた後、速やかに改修、補修をする。
- 5 ほ場内に、流入した異物がある場合は、後の収穫作業に支障がないように除去する。
- 6 病虫害の発生に注意する。特に「いもち病」は多湿条件で発生するので、早期発見と適正防除に努める。

第3 畑作物

- 1 豆類
 - (1) 浸冠水や地表面に水が停滞しているほ場では、溝切りなどの排水対策を行う。
 - (2) 「べと病」(大豆)、「灰色かび病」、「茎疫病」や細菌性病害の発生に留意し、ほ場の乾燥を待って早急に防除を行う。
- 2 ばれいしょ
 - (1) 浸冠水により塊茎腐敗が著しく増加するので、早急に排水対策を行う。
 - (2) 「疫病(塊茎腐敗)」、「菌核病」、「軟腐病」の病害防除を行う。
 - (3) 収穫期に達したほ場では、土壌が乾燥したら晴天の日にできるだけ早く収穫する。収穫後は十分に風乾し、傷・打撲・腐敗・罹病いもを確実に選別して出荷する。
- 3 てんさい
 - (1) ほ場の溝切りなどを行い、早急に停滞水の排除に努める。
 - (2) 「褐斑病」「根腐病」などの病害防除を行う。

第4 野菜

1 トマト

- (1) ハウス内土壌の乾燥を促進するため、ハウス周辺の簡易排水路の整備、通路部分の停滞水の除去、マルチフィルムの捲り上げを行う。
- (2) 草勢を維持するため、葉面散布を行う。
- (3) 汚水で汚染した茎葉や果実を除去する。
- (4) 「疫病」、「灰色かび病」、「葉かび病」の病害防除を行う。
- (5) 土壌乾燥後、土壌診断を行い、必要に応じて追肥を行う。

2 きゅうり

- (1) ハウス内土壌の乾燥を促進するため、ハウス周辺の簡易排水路の整備、通路部分の停滞水の除去、マルチフィルムの捲り上げを行う。
- (2) 草勢を維持するため、葉面散布、着果節位の適正化を行う。
- (3) 汚水で汚染した茎葉を洗浄、または除去する。
- (4) 「べと病」、「うどんこ病」、「灰色かび病」の病害防除を行う。
- (5) 土壌乾燥後、土壌診断を行い、必要に応じて追肥を行う。

3 かぼちゃ

- (1) 土壌の過湿で根痛みが発生した場合は、「うどんこ病」の蔓延が懸念されるので、ほ場を観察して適切に防除する。
- (2) 収穫後は風乾をしっかりと行い、出荷時に病害果、腐敗果の混入がないように選別を徹底する。

4 だいこん・にんじん・キャベツ

- (1) 土壌の過湿によって、だいこんの裂根や横しま症状、にんじんの裂根、キャベツの裂球等が多発する恐れがある。溝切りなど表面排水に努め、収穫期に達したものであるだけ早く収穫する。その場合品質の劣悪なものが混入しないよう、選別を徹底する。また「軟腐病」の発生が多くなるので、病害防除を行う。
- (2) にんじんは、肥料が流亡した場合は、黒葉枯病の発生が多くなるので防除を行う。また、傾斜ほ場など土壌流亡のある畑は、青首の発生が多くなるので、ほ場乾燥後に培土を行う。

5 たまねぎ

- (1) 降雹や大雨による茎葉の折損、打撲、倒伏、泥の跳ね上がりや、浸冠水により「軟腐病」や「貯蔵腐敗」（りん片腐敗病・灰色腐敗病）が発生する恐れがあるので、ほ場の表面排水対策を急ぎ、ほ場の乾燥後防除を行う。
- (2) 収穫前に罹病球を選別除去して、製品への腐敗球の混入を避ける。収穫後は雨が当たらないようにして、風通しの良い場所で風乾をしっかりと行う。
- (3) 腐敗球は、ほ場外に搬出して埋設処理等を行う。

第5 花き

1 排水・換気対策

- (1) ハウス内土壌の乾燥を促進するため、ハウス周辺の簡易排水路の整備、通路部分の停滞水の除去、マルチフィルムの捲り上げを行う。
- (2) 採花期を迎えている切花ほ場では、土壌過湿が長期化すると品質低下（軟弱化・病害発生）を招くので、ハウスの通風換気に努める。

2 病虫害防除

- (1) 病虫害防除に当たっては、土壌やハウス内の過湿により発生の高まる病害を主体に、早めに薬剤防除を行う。
- (2) 薬剤散布後ハウス内が乾きにくい状況では、少量散布防除機やくん煙剤を利用する。

第6 畜産

1 飼料作物

- (1) 雨水の浸み込んだロールベール乾草やサイレージ、冠水したスタックやバンカーサイロは飼料分析をするなど品質を確認し、飼料が不足する場合は、不足分の確保に努める。
- (2) 飼料として利用可能と判断できるものでも、大雨の影響を受けたものはなるべく早期の利用に仕向ける。
- (3) 大雨の影響を受けたロールベール乾草は、発熱する恐れがあるので必ず点検する。発熱したもの、あるいはその恐れのあるものは舎外に仮置きし、安全を確認してから収納する。
- (4) 経年草地は3日程度の冠水ではほとんど枯死しないが、無冠水に比べ減収し、冠水期間が長くなるほど枯死や減収の程度が増加する。滞水したほ場は排水溝を掘るなどして排水を促す。また、既存の排水施設に詰まりがないか点検して、排水路を確保する。
- (5) 新播草地などで冠水により表土が流失して裸地化した部分が大きいほ場は、イネ科牧草による追播を早めに行う。
- (6) 雹の打撲で本葉に傷ができた状況での除草剤散布は、薬害発生の要因となるので回復を待ち散布の是非を判断する。

2 飼養管理・衛生管理

- (1) 浸水した畜舎では、速やかに排水対策を実施するとともに、舎内等の乾燥を促進する。
- (2) 畜舎内の雨水がひき次第、伝染病や乳房炎などの感染症の発生を防ぐため、汚染部分を水洗いして消毒剤や石灰散布、石灰塗布を行う。
- (3) 乾草・サイレージ等の飼料は、泥や雨水に当たっていないことを確認して給与する。
- (4) 停電していた場合は、通電したら直ちに搾乳する。ただし、前搾りを行い凝固物（通称ブツ）の有無を確認し、乳房炎に罹患している場合は治療する。
- (5) 搾乳にあたっては搾乳器具、給水設備を十分に消毒するとともに、ミルカー、バルククーラー等の搾乳器具が正常に作動することを確認する。
- (6) 断水が続いている場合は、サイレージなどの水分の多い粗飼料を中心に給与する。また、放牧が可能であれば水分補給とストレス解消のために放牧地へ放す。
- (7) 牛の体調を確認して、異常牛を発見した場合は、速やかに獣医師の診断を受ける。
- (8) 堆肥や尿溜に入った雨水が流出する恐れがある場合は、土盛りなどを行い、河川汚染を防ぐ。

お問い合わせ先：食の安全推進局技術普及課（電話011-231-4111内線27-823）